

# アルツハイマー病とは？



アルツハイマー病は認知症の一種で、認知症の約7割を占める、最も多い疾患です。アミロイドβというタンパク質の蓄積によって脳が委縮し、記憶力や判断力が低下して少し前の出来事を忘れてしまいます。日本には約53万人もの患者がおり、その多くは65歳以上の高齢者に発症する加齢性のもので、年齢とともに認知機能の低下が見られます。

## アルツハイマー病と単なるもの忘れとの違い

アルツハイマー病は、脳の神経細胞にアミロイドβという異常タンパク質が蓄積して、神経細胞を破壊し、脳の萎縮が進行します。画像検査により確認が可能です。

「認知症によるもの忘れ」と「老化によるもの忘れ」は、初めのうちは区別がつきにくいですが、次第にはっきりとしてきます。違いをまとめると以下ようになります。

認知症によるもの忘れ	老化によるもの忘れ
体験そのものを忘れる	体験の一部を忘れる
忘れたことが分からない	忘れたことを自覚している
ヒントを与えても思い出せない	ヒントを与えると思い出せる
食べたことを忘れる	何を食べたか忘れる
約束したという行為自体を忘れる	約束をうっかり忘れる
買い物に行ったことを忘れ、 また買い物へ行く	買い物へ行ったときに、うっかり買い忘れる
日付や曜日、場所などが分からなくなる	日付や曜日、場所などを間違える
間違いを指摘すると、 辻褃を合わせた変な作り話をする	間違いを指摘しても、作り話はせずに謝る
捜し物は誰かに盗られたと思う	捜し物は努力して見つけようとする

## アルツハイマー病の治療薬

- 認知障害：ドネペジル(アリセプト)→軽度～高度  
ガランタミン(レミニール)→軽度  
リバスチグミン(リバスタッチパッチ)→軽度～中等度  
メマンチン(メマリー)→高度
- 行動、心理症状(BPSD)：幻覚、興奮→抑肝散  
幻覚、妄想→チアプリド、リスペリドン(リスパダール)  
うつ→パロキセチン(パキシル)  
睡眠障害→ゾルピデム(マイスリー)



## BPSD とは？



Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia (行動・心理症状)は、周囲の不適切なケアや身体の不調や不快、ストレスや不安などの心理状態が原因となって現れる症状です。  
例えば、「怒りっぽくなる」「妄想がある」「意欲がなくなり元気がない」「一人でウロウロと歩き回る」「興奮、暴言や暴力が見られる」などの症状のことを言います。

## アルツハイマー病かも…?と思ったら

- もの忘れが酷くなった
- 判断、理解力が衰える
- 時間、場所がわからない
- 人柄が変わった
- 不安感が強い
- 意欲がなくなる



等の症状が見られたら、医師に相談しましょう。

また、定期的な検診を受けることが大切です。

## アルツハイマー病に対する新薬



イーザイとアメリカの製薬会社バイオジェンが共同開発したアルツハイマー病の新薬、アデュカヌマブ(アデュヘルム)がアメリカでの迅速承認を6月に受け、今注目を集めています。これが正式に認められれば、アルツハイマー病の新薬承認は25年ぶりとなり、アデュカヌマブに対する期待が高まっていますが、日本での承認はまだ先になりそうです。

参考資料・図：日本認知症協会、朝日新聞、イーザイ株式会社

文責：ことぶき薬局実習生 城西国際大学 渡邊